

事業番号	33
------	----

平成24年度事業評価シート（平成23年度事業の評価）

1. 事業の概要

事業名	学校体育施設開放事業				担当課	スポーツ振興課	
事業期間	開始年度	～	終了予定年度		担当係	スポーツ振興係	
総合計画	めざすまちの姿	1 人が育つまち					
	目標	⑥ 学習・スポーツ活動の環境を充実する（生涯学習・スポーツ振興）					
	成果指標	市民のスポーツ実施率	中間目標 (H27)	52%	最終目標 (H32)	57%	
予算区分	一般会計	10 款 教育費	7 項 保健体育費	2 目 スポーツ振興費			
	細事業	308 スポーツ活動推進費（学校体育施設開放事業）					
位置づけ	関連計画						
	根拠法令						
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市 ・ <input type="checkbox"/> 国 ・ <input type="checkbox"/> 県 ・ <input type="checkbox"/> その他						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施・運営 <input type="checkbox"/> 一部又は全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他（						
対象(誰のため)	<input type="checkbox"/> 全市民 <input checked="" type="checkbox"/> 特定の市民 <input type="checkbox"/> 特定の団体 <input type="checkbox"/> その他						
事業の目的(何のため)	生涯スポーツの推進・普及のため、利用団体・利用者の増加						
内容(概要)	<p>市内の小学校6校、中学校5校、高校1校、幼稚園1園を夜間中心に学校開放を行っている。 主な行為は、施設のカギの受け渡しと2か月に一度行う調整会議において施設の利用調整を行い、円滑に利用できるように努めている。</p>						
これまでの改善・見直しの状況	<p>利用者からの利用点検簿において、施設の不良箇所を掌握し、照明器具の交換等については学校に連絡し、早急に対処してもらい、修繕を要するものについては、市が営繕を行う。</p>						

2. コスト

(単位:千円)

		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成23年度事業費
事業費	予算	420	1,368	450	(内訳)
	決算	300	999		物件費(消耗品費) 28
財源内訳	国庫支出金				維持補修費(施設等の修繕料) 971
	県支出金				999
	地方債				
	その他				
	一般財源				
職員人件費	2,202	1,705	3,134	人工	0.4 人

3. 事業の評価

事業の実施状況

内容		単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	達成率	
活動指標	利用者人数	人	目標	105,000	105,000	105,000	101%
		実績	111,464	105,933			
			目標				
		実績					
			目標				
		実績					
	平成23年度 活動内容	市内学校体育施設を開放し、住民がスポーツを通じて交流する場を提供した。 運動場：752回 21,220人 体育館：2,794回 62,632人 武道場：770回 17,850人 クラブハウス：91回 601人 幼稚園：121回 3,630人					
	課題・問題点 となった事項	知波田小学校グラウンド照明が漏電していた。					
どう対処したか	耐震工事が完了する前に照明灯の修繕を行った。						
改善点	利用調整会において、施設利用するために予約の手続きをとっているが、この時申込み責任者に納付書の発送先の宛て名書きをしてもらっており、事務の効率化を図っている。				効果額 H24-H23 (千円)		
自己評価	事業目的の 達成状況	市民が利用しやすいように学校体育施設の保全を図りながら、利用者の要望に応えるべく学校開放を行った。					
	※必要性 事業を廃止・休 止したときの影響	スポーツを行う場所を提供することにより、競技力の向上、青少年健全育成、健康維持などスポーツの持つエネルギー（生活への活力）を提供できなくなる。					
	判定	A 継続	現行の内容で実施	事業主体	市		
	判定理由	市民がスポーツに親しみ利用することは、心身の健康保持、増進につながり、人との交流や活力を醸成するためにも必要であるので、市が継続して事業を実施する。					
今後の方向性	誰でも、いつでも、どこでも、いつまでも親しみ、楽しむことが出来る生涯スポーツ文化の創造をめざす。						